

基本構想の視点「くらし」

感染症対策

- パンデミック時、軽症なのに救急車を呼んでしまうなど救急の体制が滞った。健康・病気に対する教育をさらに強化していく。
- インフルエンザワクチンに対する助成を子どもへ拡大する。

ビューティフル・ウィンドウズ運動

- たばこのポイ捨ては減っていないように感じる。喫煙ルールが守られていない。
- たばこのポイ捨ての指導體制の見直しや、喫煙所の検討が必要。
- 声掛けをする仕組みなど、あらかじめ手を打っていくことで安全なまちを保てる。

くらしやしごとに困っている人への支援

- 孤立・孤独や病を抱えている人を、芸術やスポーツや園芸のグループ、ボランティアや図書館など、地域のグループや公的サービスに橋渡しする支援。
- 困っている人がカテゴリー別にできないほど複雑化しているため、重層的な支援体制が重要となる。足立区は重層的支援の先を進んでほしい。

地球温暖化対策

- 家庭のCO2排出量が多い。
- 区民一人ひとりが環境にやさしいまち

高齢者が地域に住み続けられる仕組み

- 高齢者にやさしい区
- 地域で高齢者を自然に見守る雰囲気
- 元気な高齢者がそうでない高齢者を見守る。

消費者被害・特殊詐欺対策

- 特殊詐欺が減少傾向にあるわけではない。先進事例の研究をしてほしい。
- 住民全体が特殊詐欺に気をつける状況を作り、地域全体で防衛していく取組みが重要。
- 気軽に相談できる人がいることが重要。
- 消費者教育は学校だけでは足りない。

生活環境

- ごみ屋敷問題に対する施策は、高齢者や精神疾患のある方など、今はそこまでひどくないが、今、手を打たないといけない家でも使えるなど、もう少し使いやすい制度になるとさらに良い。
- 区では、ごみ屋敷問題に対して、足立区医師会と連携し、精神科医にアドバイスをもらっている。区だけでなく、専門家の知識を活用することで上手くいっている。

障がい者への支援

- 障がい者が防災訓練に参加できていない。
- 障がい者と健常者が関わるのが少ないため、障がい者への理解が進んでいないと感じていると聞く。
- 障がい者と健常者が交じり合って交流が生まれるような場を作る。
- 障がい者が当事者として事業へ関わっていく仕組みが重要。

地域で支え合う体制

- 高齢者と子どもをつなげる。
- 前から住んでいた人と転入した人をつなぐ。
- 災害と関連付けて地域コミュニティを考える。
- 固定した所属による強い絆（ストロングタイ）より緩やかな所属と弱い絆（ウィークタイ）を豊かにすることが求められている。
- 孤立・孤独対策を高齢者のみならず広げていく。

基本構想の視点「まち」

交通環境・道路環境

- 電動キックボードなど道路の使われ方が変化しており、そのためのルールが必要。
- 交通空白地域があり、新しい交通システムを検討するとなっているが、具体的に進めていく必要がある。
- 歩道が電柱によって通れなくなっており、車道に出ると危険な状態がある。無電柱化を進めてもらえると有難い。
- インターロッキングの道がかなりデコボコな状況であり、改善の方向性を示してほしい。

震災・水害対策

- 水害時のマニュアルなどを知らない区民が多いため、周知を強化する必要がある。
- 災害時の要支援者への支援については実効性が難しい。

就労・雇用、区内企業のデジタル化・成長支援

- 引き続き、今やっている若者サポートステーションなどの支援に力を入れていくべき。
- 雇用される側の施策が多いが、雇用する側が雇用しやすい環境を整える施策も必要。
- デジタル技術者には勉強会文化があり、新宿等で集まっている。特別区東部にもコミュニティができ、デジタル化に困っている事業者とのマッチングの場ができれば面白い。

エリアデザイン・拠点開発

- エリアデザインに入っていない地域の開発はどうするか。エリア内でも様々なニーズがあるので、まだまだ練らなければならない部分もある。しっかりと計画が進むようにしてほしい。
- 開発の際には大きな資本が入って、テナントや飲食店に偏るなど繁華街のようになってしまう。

その他・横断的な意見

- 若い人が足立区に住み、まちへ取り込んでいくことを考える必要がある。
- ウェルネスのプラットフォームとなるまち
- 町会・自治会の世代交代が進んでいない。
- 町会・自治会がなにをやっているか分からない。
- 町会・自治会の在り方を考える岐路にいる。
- 町会・自治会加入率を下げ止める。
- 災害時に町会・自治会の果たしている役割は大きい。
- 転入時に地域の情報を提供できる仕組み
- 中年単身者の問題が、今後顕在化する。
- 10年後、20年後を目指して、何か戦略的にやっていく必要がある。
- みんなが知らないが、「こんなものが足立区にある」というものが広がると良い。
- 大きな拠点を開発するよりは、いろいろな人が集まってアイデアを出し合うまちづくりが良い。
- 区民の動きをサポートすることで、何か生み出されるのではないか。
- 空き家活用も有効。
- 区外の人の意見を聞き、強みを生かしていくことが必要。
- 高齢期に至る前の単身者の8割は賃貸住宅に住んでおり、高齢期まで住宅を確保できるかどうかについて不安を感じている。高齢者に限らず、安心して住み続けられるようにする必要がある。